

# ま な び や 日黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.49 2018年5月10日発行 発行人 関野祐二  
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804  
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: [covenant-seminary@nifty.com](mailto:covenant-seminary@nifty.com)

---

主の聖名を讃美いたします。

年に何度も見事な大輪を咲かせていた、正門入って左の薔薇が枯れました。のろったわけでもないのに、通用口前の野牡丹も花を付けたまま一夜にして立ち枯れ。原因はさまざまでしょうが、生きている植物だからこそ、人の世と同じく栄枯盛衰があるのでしょうか。美しさと健気さ。毎朝晩、キャンパスを歩いて門や鍵の開け閉めを繰り返しつつ、春の庭に咲き誇る花々に語りかけ、励まされています。「今日あっても明日は炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこのように装ってくださるのなら、あなたがたには、もっと良くしてくだらないでしょうか..」(マタイ6:30)。

校長 関野祐二

## ● 一ヶ月を乗り切って

「GWまでの一ヶ月を何とか乗り切ってください」とは、入学式後第一週のチャペルタイムで繰り返すお決まりのフレーズ。春の不安定な気候にも似て、4月は活動の始まりとともに環境が激変する季節ですから、新入生は神学校に慣れること、在校生は新たな履修科目のペースをつかむことに必死です。今年度、春風のように(突風?)神学校スタッフ&教師に就任したY r先生も同じでしょう。「まずは授業の始まりと終わり、一緒に廊下で立っててください」とお願いしました。校長に就任した頃、何をしたらいいかわからず、ともかくも通ってくる在校生に挨拶しようとした習慣(小学校の校門に立つようなもの)。「課題がたいへんです」「かぜをひきました」「(ショートステイのため)寮の鍵を貸してください」「この忘れ物を見つけました」「これ、ご家族で食べてください(けっこう嬉しいものです)」「〇〇の本、どこにありますか」「実は今度..」などなど、いろいろなやりとりがここから生まれます。今年の新入生が意外と元気なのは、若さだけでなく、新約通論がY r先生に交替したからかも、なんて邪推しながら、クラス担当が減った分なおのこと、少しでも関係作りをしようと呼声をかけている日々です。GWが明けたら7月下旬まで通常スケジュール。心配そうな学生には、「明日のことは明日が心配します。苦労はその日その日に十分あります」(マタイ6:34b)とのみことばをプレゼントすることにしています。

## ● 教育課程「ユースミニストリー」始まる

難産だった教育課程も、ついに「ユースミニストリー」4名クラスが火曜夜にスタートしました。広い教室が埋まっていて(比較宗教はまさかの20名、お向かいはソーシキ神学10名)、定員6名の第3教室がその根城。覗いてみたらなんと、ユースの親世代がチラホラ。元々若作りのM先生がユースに近く見える!? でも、経験豊かな方々がユース伝道を専門に学ぶのはすばらしいことですね。情熱と口達者な(!)ことにかけては教師も学生も全く同列の様子。6月にユースの関心が深い科学と信仰の講義を頼まれています。質問攻めで言いくるめられないかちょっと心配です。こちら、アラカンで体力気力減退と嘆いてばかりはられないな、と反省しきり。

## ● 来日講演前夜

ジョン・ウォルトン師の来日講演が近づきました。このレターがお手元に届く頃はすでに終わっているでしょうか。思い返せば4年前の2014年4月、スタートした組織神学クラス関連で同氏の原書を拾い読みしていたら、クラス学生が秘かに下訳を始めていると判明。章ごとにそれが送られて来るようになり、助けられて11月の神学研究会議講演で使ったところからでした。このあたりの経緯は、先頃邦訳出版成った「創世記1章の再発見——古代の世界観で聖書を読む」の監修者あとがきをお読みください。のんびり下訳監修を続けていたら、導きあって著者の来日打診があり、これを出版記念講演にしようということになって、お尻に火が付いた次第。3月の春休みはもちろん、休み明けの4月第一週は数日間が半徹夜状態でしたが、こうでもなければ多忙にかまけて完成しなかったかもしれません（実はずっと前に頼まれた別の監修が棚上げ状態で、次はこちらに火をつける所存。関係者の皆さまゴメンナサイ）。昨年6月から続けてきた、出版と来日講演の実行委員会も、関東や関西の複数の神学校をも巻き込んで講演会が実現する運びとなり、海をも超えた良い協力体制で守られました（弱小セイケイも少しはお役に立てたかな）。個人的には、とかく対立軸で受け取られがちだった聖書と科学の関係性があざやかに解説されているので、最近頼まれることが増えてきた講義や講演の力強い味方。ちなみにこの邦訳書、表紙は嬉しいことに、ブラックホールを秘めた天の川銀河系中心方向にあたる、いて座の写真にしてくれました。おっと、我ら神学校がキリスト教界のブラックホールならぬ祝福の基となりますように。

## ● 天からの石が届いた日

あれは昼授業終了直後の事務所前、緩衝材入りの白封筒が郵便で届きました。来た、来た、立ち話中の数人がいる前で開封したら案の定、出て来たのは3センチ四方の小箱に収められた5ミリほどの黒い小石。2013年2月15日、ロシアのチェリャビンスク州に落下し、衝撃波で多数のけが人が出た隕石のかけら（という解説つき）です。オークションでゲットしたんだと胸を張ったら、「その辺の石を拾ってきたんじゃないですか」と散々なコメント。くやしいので、値段を当ててみてと問うと、口々にウン万円との予想（庭の小石だとの評価と矛盾するなあ）。実際は野口さん1枚でした。同封の新聞記事によれば、鑑定結果の年代は太陽系が誕生した頃の46億年前とのこと。あの日、火星と木星の間を漂う小惑星帯から迷い出た差し渡し17mの隕石が地球大気圏に突入、ロシア上空で爆発し、閃光とともに破片が散らばったのでした（動画サイトで見られますよ）。神学生の頃、「神の国はイエスさまという火の玉あるいは隕石のように地上へ飛び込んできたのだ」と教えられ、妙にじっくり納得したことを思い出します。手付かずの宇宙起源の石が天から落ちて来るなんてステキ。ほら、だからこれも立派な神学教材でしょ、とりたいところですが、少し無理があるかな。2月のバレンタインに神学生からもらった「太陽系惑星チョコレート」（全部食べたよ）の缶に、以前別の所で買った小さな隕石とともに収めました。

## ● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 在校生82名、教職員16名の前期学びと働きが夏休みまで支えられるように。特に、4月より本校で教務主任&男子寮主事&教師の働きを始めた、山崎ランサム和彦師のため。
- ・ 本校が他校や諸教会、超教派諸団体、JEAや福音主義神学会と協力しながら、福音主義キリスト教界の健全な神学研究と交流、情報発信、出版など良き働きを続けられるよ

うに。

- 本校の管理運営が支えられ、主にある献身者育成の使命を果たすことができるように。